

※※2013年1月改訂（第12版 販売会社変更）
※2008年2月改訂

日本標準商品分類番号
873991

処方せん医薬品：注意—医師等の処方
せんにより使
用すること

貯 法：室温保存
使用期限：3年
（外箱・容器に表示の使用
期限内に使用すること）

コンドロイチン硫酸製剤

※ **コンドロイチン注1%「マイラン」**
※ **コンドロイチン注2%「マイラン」**
Chondroitin
（コンドロイチン硫酸エステルナトリウム注射液）

	1%	2%
承認番号	21700AMX00101	21700AMX00102
薬価収載	2008年2月	
販売開始	1988年7月	

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組 成

容 量		1% (20mL)	2% (10mL)
成分・含量 (1管中)	コンドロイチン硫酸エステル ナトリウム	200mg	200mg
添 加 物	塩化ナトリウム	180mg	50mg
	pH調整剤	適 量	適 量

2. 製剤の性状

性 状	無色または微黄色のやや粘稠な注射液である。
pH	6.0～7.0
浸透圧比	0.5～1.4（生理食塩液に対する比）

【効能・効果】

進行する感音性難聴（音響外傷を含む）
症候性神経痛、腰痛症、関節痛、肩関節周囲炎（五十肩）

【用法・用量】

コンドロイチン硫酸エステルナトリウムとして、通常成人
1回20～300mgを1日1回静脈内又は筋肉内注射する。
ただし、鎮痛の目的で使用する場合には、経口投与が不
可能な場合又は経口剤で効果がみられない場合にのみ使
用し、経口投与が可能になった場合には速やかに経口投
与に切り替えること。
なお、静脈内注射は急性症状にのみ使用すること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

薬物過敏症の患者

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる
調査を実施していない。

(1) 重大な副作用（頻度不明）

ショック：ショック様症状があらわれることがあるの
で、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な
処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種 類	頻 度	頻 度 不 明
過 敏 症 ^{注)}		発疹、熱感
適用部位		注射局所の疼痛

注) 発現した場合には投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では、生理機能が低下しているので減量
するなど注意すること。

4. 適用上の注意

(1) 投与時：筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への
影響を避けるため、下記の点に注意すること。

- 1) 同一部位への反復注射は行わないこと。
- 2) 神経走行部位を避けること。
- 3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の
逆流をみた場合は直ちに針を抜き、部位をかえて
注射すること。

(2) アンプルカット時：本品はワンポイントカットアン
プルであるが、アンプルのカット部分をエタノール
綿等で清拭してからカットすることが望ましい。

【薬効薬理】

(1) 結合組織に対する作用

牛皮コラーゲン溶液のマウス背部への局所投与による
結合組織コラーゲン線維の再生を促進させる¹⁾。また、
in vitroで再構成された仔牛アキレス腱のコラーゲン
線維を安定化することが認められている²⁾。

(2) 中枢性鎮痛作用

中枢における疼痛感受の閾値を高めるといわれる。

(3) 臓器に対する作用

グルクロン酸を遊離し、解毒作用をあらわすと同時に
肝臓の庇護作用を有する。
また腸の蠕動運動を促進する。

(4) 循環器系に対する作用

血液のコロイド性を調節し、血流を改善する。また、
末梢血管拡張作用も有する。

(5) 代謝に及ぼす影響

硫酸エステル基を有し、イオウ代謝障害を改善する働
きがある。

(6) 蝸牛有毛細胞障害抑制作用

強大音負荷³⁾ またはジヒドロストレプトマイシン^{3,4)}
によるモルモットの蝸牛有毛細胞障害を抑制すること
が認められている。

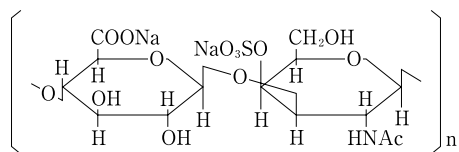
【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：コンドロイチン硫酸エステルナトリウム

(Sodium Chondroitin Sulfate)

化学名：sodium salt of sulphuric acid esters of
chondroitin

構造式：



性 状：本品は白色～類黄褐色の粉末で、においはない
か、またはわずかに特異なにおいおよび味がある。
本品は水に溶けやすく、エタノール（95）、ア
セトンまたはジエチルエーテルにほとんど溶け
ない。
本品は吸湿性である。

【包 装】

1%（20mL）：50管

2%（10mL）：50管

【主 要 文 献】

- 1) 中谷一夫：東北医誌, 75, 309 (1967)
- 2) Jackson, D. S.：Biochem. J., 54, 638 (1953)
- 3) 久保正雄：交通医学, 13, 235 (1959)
- 4) 志多 享：日本耳鼻咽喉科学会会報, 60, 164 (1957)

※※【文献請求先】

ファイザー株式会社 製品情報センター

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

学術情報ダイヤル 0120-664-467

FAX 03-3379-3053



※製造販売元

マイラン製薬株式会社

大阪市中央区本町2丁目6番8号

※※販売

ファイザー株式会社

東京都渋谷区代々木3-22-7

